

2, YICA (外国語活動) 指導計画

1, YICA (外国語活動) のねらい

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

(三つの柱)

- ① 外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める。
- ② 外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
- ③ 外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ。

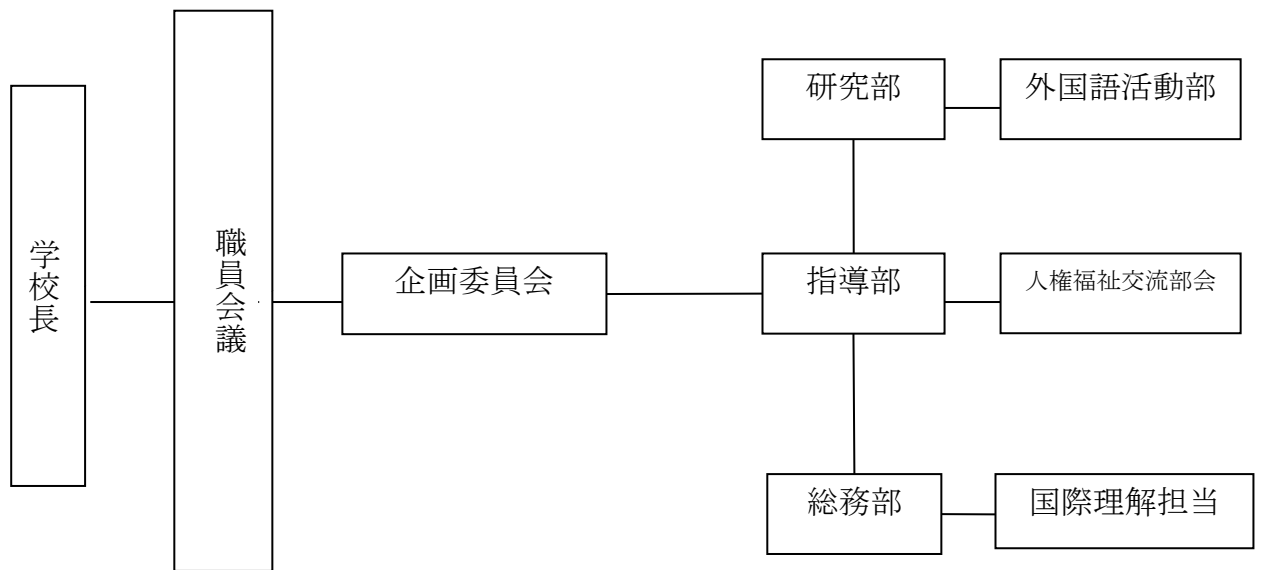
2, 平成29年度 YICA (外国語活動) 実施時間数

- 1, 2年・・・20時間 (英語活動17時間+国際理解3時間)
- 3, 4年・・・20時間 (英語活動15時間+国際理解5時間)
- 5, 6年・・・35時間 (英語活動30時間+国際理解5時間)
- 個別支援級・・・15時間 (英語活動10時間+国際理解5時間)

3,めざす子どもの姿

- 多様な異文化について、「違い」を「違い」として認識する態度や、相互に共通している点を見つけようとする態度が身に付いている。
- 英語に親しみ、様々な人々と積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度が身に付いている。
- 身近な英語を聞いて、分からないところを理解しようとする態度が身についている。
- あいさつなどの身近な表現に慣れ、表現しようとする態度が身についている。
- 身近な単語を見て意味を理解しようとするなど、文字に対する関心が高まっている。
- 自分の名前や身近な単語などを書くことに親しみ、必要に応じて積極的に使用しようとする態度が身についている。
- 様々な国の講師とのコミュニケーション体験を通して、英語が国際的にコミュニケーションの手段として有用であるということを理解している。
- 世界の様々な状況や、世界の中での自国の状況に目を向けようとしている。

4,組織



5, 英語活動の実際

- ・学級担任および AET の TT で指導にあたる。担任が主となります。AET とデモンストレーションをすることも可能。
- ・横浜版学習指導要領ベースカリキュラム、事例集Ⅱ（ベースカリキュラムの1時間ごとの指導案）Hi friends をもとに、AET と授業の確認をして、授業の準備をする。
- ・AET との役割分担を明確にして、指導にあたる。（指導分担型授業）
- ・授業の始めに「めあて」の確認、最後に「振り返り」を行う。振り返りはカードを活用してもよい。

6, 国際理解教室の実際

- ・学級担任および IUI の T、T で指導にあたる。
- ・計画・立案は IUI が行う。
- ・外国語を通して、異文化に触れ、自国の文化に目を向けられるようにする。
- ・学級担任は、日本語への通訳をしないで、デモンストレーションや、やりとりをとおして子どもたちが類推できるようにする。

7, その他

- ・国際理解文庫
図書室に国際理解関係の本の棚を設置
世界の国々を紹介した本、簡単な英語の本などを置く。